

昭和52年度帰国研修員巡回指導

帰国研修員癌対策早期胃癌診断  
巡回指導報告書

国際協力事業団  
研修事業部

JICA LIBRARY



1029062[5]

国際協力事業団	
受入 月日 '85. 3. 23	108
登録No. 11178	916
	TAD

## は　じ　め　に

この報告書は、国際協力事業団が実施した癌対策コース及び早期胃癌診断コースに対するフォローアップ事業の一環として、帰国研修員の所属機関等を訪問し、現地での技術的諸問題に関する技術指導並びにニーズの調査等を行うため、昭和52年11月23日から12月9日までの17日間、インドネシア、エジプト、フィリピンの3ヶ国に派遣した帰国研修員巡回指導癌対策、早期胃癌診断班の業務報告である。

本報告書により、当該研修文野における各国の実情、帰国研修員の活動状況、彼等が抱えている諸問題、及び研修に係る要望事業等について関係各位のさらに深い御理解をいただき、今後の研修コースの改善に資すれば幸いである。

なお、本件の実施のために御協力を賜った外務省、厚生省、国立ガンセンター、早期胃癌検診協会その他関係機関各位に対し深甚なる謝意を表したい。

昭和53年3月

研 修 事 業 部

部 長 八 坂 博 郎

## 目 次

I	巡回指導の概要 .....	1
	(1) 派遣の目的 .....	1
	(2) 指導班員の構成 .....	1
	(3) 派遣国及び期間 .....	1
	(4) 日 程 .....	1
II	国別指導及び調査 .....	5
	(1) 概 要 .....	5
	(2) インドネシア .....	5
	(3) エジプト .....	7
	(4) フィリピン .....	9
■	まとめ .....	12
参 考 資 料		
	(1) 訪問機関名簿 .....	15
	(2) 帰国研修員名簿 .....	16
	(3) 面接者名簿 .....	25



11月26日

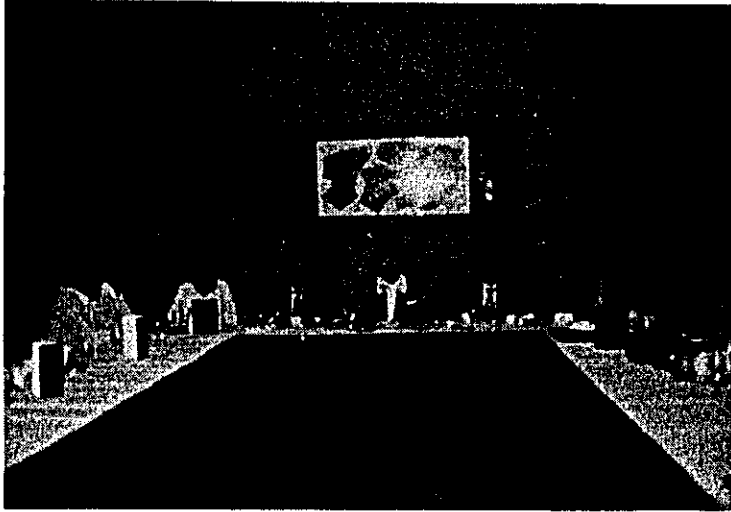
サリバンフィックホテルに於ける  
帰国研修員との懇談会(ジャカルタ)



11月26日  
インドネシア大学附属テプト病院訪問  
(ジャカルタ)



11月29日  
スラバヤアイルランガ大学関係者  
に対する市川病院長の講演(スラバヤ)



## I 巡回指導の概要

### (1) 派遣の目的

国際協力事業団は厚生省、国立ガンセンター、早期胃癌検診協会の協力を得て昭和38年度及び昭和44年度よりガン対策コース(Clinical Oncology)及び早期胃癌診断コース(Early Gastric Cancer Detection)を各々毎年一回実施している。昭和52年度迄に両コース参加者総数はおよそ250名、参加国はおよそ30ヶ国の多くを数える。

今回の巡回指導は、帰国研修員の比較的多いインドネシア、フィリピン、更にエジプトの3ヶ国を対象とし帰国研修員の所属機関、関係諸官庁等も歴訪し、我が国に於ける消加器癌を中心とした技術の紹介、帰国研修員が直面する技術的諸問題についての積極的アドバイス、当研修コースに対する要望聴取等の業務を実施した。

### (2) 指導班員の構成

国立ガンセンター

病院長 市川 平三郎

東京女子医科大学 消化器病センター

助教授 鈴木 茂

国際協力事業団研修事業部 研修第二課

村田 隆一

### (3) 派遣国及び期間

派遣国………インドネシア、エジプト及びフィリピン(3ヶ国)

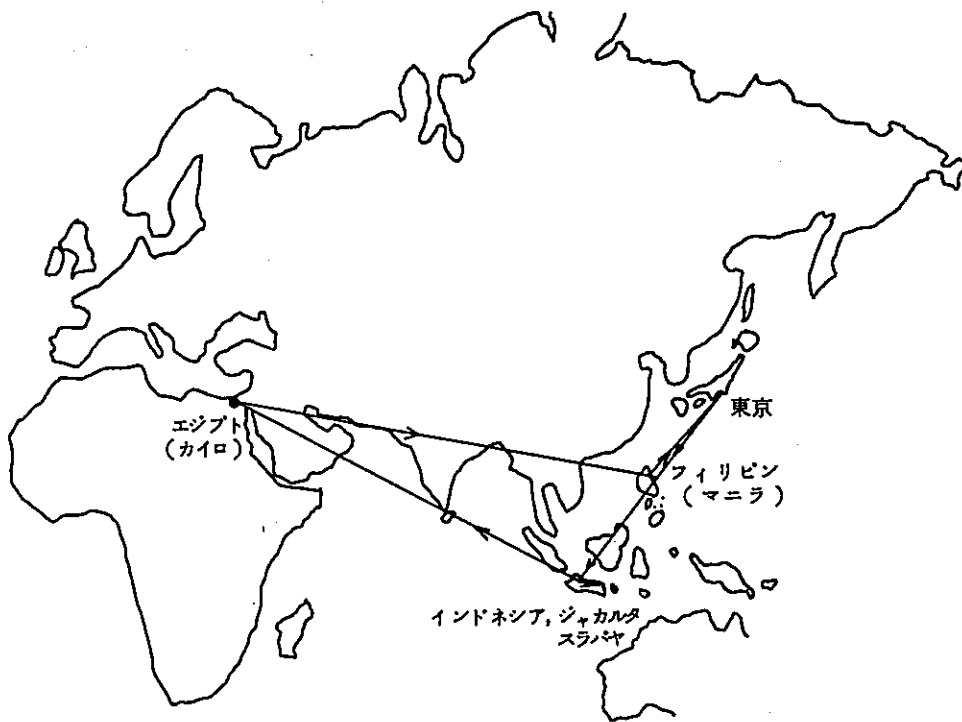
期 間………昭和52年11月23日～同年12月9日(17日間)

### (4) 日 程

指導班の旅行経路及び日程は次の通りである。



インドネシア	11月23日～11月30日
エジプト	12月1日～12月3日
フィリピン	12月4日～12月9日



昭和52年度 癌対策，早期胃癌診断コース巡回指導日程

月	日	曜日	国名	訪問機関及び行事	内 容
11	23	水	インドネシア		東京発→ジャカルタ着 日本大使館書記官(市川一等書記官)，JIOAジャカルタ事務所職員(佐藤氏)，Dr.ハリヨノの出迎えを受け宿舎サリバンフィックホテルへ直行 インドネシア癌シンポジウム委員長Dr.シマディプラタ氏と共に日程打合せ。
11	24	木	インドネシア	JIOA事務所 第一回インドネシア癌シンポジウムに於て市川博士講演	鶴見所長より現地事情の説明聴取 消化管のX線検査
11	25	金	インドネシア	日本大使館 保健省医務総局  技術協力委員会	吉良大使，国広公使表敬 スダルト次長と意見交換及び要望聴取 要望聴取
11	26	土	インドネシア	インドネシア大学附属病院  帰国研修員との懇談会 インドネシア癌シンポジウム閉会式	病院長Dr. Reku monoより現況説明及び院内参観 技術的討論及び研修員の要望聴取
11	27	日	インドネシア	フサダ病院に於て鈴木博士講演	胃癌の内視鏡診断
11	28	月	インドネシア	領事館	ジャカルタ → スラバヤ
11	29	火	インドネシア	アイルランガ大学附属病院 市川博士講演	病院長より現況説明及び病院参観 聴取およそ100名 スラバヤ → ジャカルタ ジャカルタ → バンコク バンコク → カイロ
11	30	水			
12	1	木	エジプト	日本大使館 JIOAカイロ事務所 帰国研修員との懇談会	戸部医務官訪問 広谷所長と日程打合せ 技術的討論と研修員の要望聴取
12	2	金	エジプト	休日	
12	3	土	エジプト	サヘル教育病院 カイロ大学附属病院	病院参観 学部長による現況説明及び病院参観
12	4	日			カイロ→マニラ JIOA後藤職員及びDr. ベレス(研修員)の出迎えを受けホテルにて日程打合せ

月	日	曜日	国名	訪問機関及び行事	内 容
12	5	月	フィリピン	サントトマス大学 大使館表敬 ルナ総合病院 帰国研修員との懇談会	症例研究  病院長による説明及び病院参観 吉田JIOAマニラ事務所長, 後 藤職員研究員11名, 技術的討論 と研修員の要望聴取
12	6	火	フィリピン	ホセレイエス記念病院国立ガンセ ンター	概括説明及び病院参観 所長Dr.T.Ellicanoによる現況説明
	7	水		休日	
	8	木		保健庁 フィリピン大学附属病院 N.E.D.A. フィリピン癌協会, フィリピン消 化器協会役員との懇談	長官Dr.Gatmaitan表敬 概括説明及び病院参観 要望聴取
12	9	金	フィリピン		マニラ → 東京

## Ⅱ 国別指導及び調査

### (1) 概 要

従来巡回指導班が目標とする点は帰国研修員の要望調及び所統機関の機能調査であるのに対し、本巡回指導班は主として研修員のみならずその所属機関に散在する人材に対する指導に主眼を置いた。

その結果インドネシアに於ては聴衆約250名を集めたガンシンボジウムでの市川ガンセンター病院長の講演、アイルランガ大学関係者約100名を集めたスラバヤでの講演、ジャカルタでの鈴木助教授による講演、内視鏡の検査、エジプトでは内視鏡に関するDemonstrationであり、フィリピンに於ては症例検討会での診断や討論等であった。

帰国研修員の要望調査について研修員との会議を持った。その参加者はインドネシアでは帰国研修員17名中12名、エジプトでは7名中5名、フィリピンでは18名中11名。

### (2) インドネシア

#### ① 病院の規模・設備

主に研修員の所属するインドネシア大学医学部附属病院、Husada病院（以上Jakarta）、Airlangga大学附属病院（Surabaya）を訪れたが、これらはまさにIndonesiaを代表する大病院であり、病院としての規模・設備も立派なものである。当然、内視鏡関係の器械もJakartaの2病院ではほとんどの種類が揃っていたし、これらを実際の診療に十分役立てている。ただSurabayaのAirlangga大学病院の内視鏡はJICAから供与されたFiberscopeが3本あったが、これらはすべて破損し使用に耐えるものではなかった。3本共にScope先端Angle部のゴム被覆が縦に鋭利に裂けている状態で、今まで経験したことのない全く理解に苦しむ破損状態であった。しかもすでに3年が経過しているのに何等の修理もなされず放置されていた。

これがIndonesia第2の都市にある有名なAirlangga大学でのことであるから、

地方の島々の状態は押し知るべしであろう。つまり中央と地方の格差はこのようなことだけから判断しても、あまりにも著しすぎる印象を強くした。

一方、Dr.Akilのようにこの follow-up のためにわざわざはるか遠くのセレベス島から出てきてくれた熱心な研修員もおり、こういう人達の現地での実情も是非知りたいものである。

## ② 帰国研修員の活躍状態

今回の follow-up において最重点の置かれた国であり、従って研修員の数も最も多く12名であった。

研修員の多くは、現在もその専門を消化器病の診療にあてており、Seminarでの研修を有効に役立っているのは、出発前に予想した以上であった。かつて東南アジアからの研修員には折角のSeminarもあまり役立っていないのではなかろうかという噂も耳にしたことがあるが、これは全く間違いであることを改めて知った。

例えば第1回の研修員であるDr.Hilmy、第2回のDr.Simadibrataはこの国における消費性器病診断の最高権威であるし、今回の癌学会の会長もDr.Simadibrataであった。特にJakartaでは、研修員の地位は高く、このSeminarが十分に役立っているとの印象を強く受けた。

またJakarta以外の地方の研修員もそれぞれ活躍し、特にメダンにあるNorth Sumatra大学のDr.Kadri、Dr.Malpaungは来年度のインドネシア医学会の会長、副会長である。

このようにいずれの研修員もこの国の指導的立場にあることは全く予想以上であり、そしてまた今回の follow-up が大変やり易く、Dr.Simadibrataらの協力も実に行きとどいたものであった。

ところで今回の follow-up には講演会も含まれていたが、市川はインドネシア癌学会で消化管X線検査について特別講演を行ない、SurabayaでもAirlangga大学関係者に講演を行なった。鈴木はIndonesian Society for Digestive Endoscopy Meetingで胃癌の内視鏡診断について講演を行なったが、いずれの場合も大変反響が大きく、Discussionも活発であった。これはインドネシアでのこの方面の level が相当高くなりつつあることを物語っていると思われる。

### ③ 胃癌診療の現状

この国に限らず東南アジアの諸国にあつては、医学の領域では現在まで感染症や寄生虫症への対策が十分ではないため、これらの病気への一般の関心がまだまだ強い。従つて胃癌、とりわけ早期胃癌とまでなるととても手が廻らないというのが実情である。事実まだ早期胃癌は特殊な病院でごくわずかに発見されているにすぎない。このような実情からも Early Gastric Cancer Detection

Seminarというような名称で研修員を受け入れていることにいくぶん抵抗を感じざるをえない。ただこのような現状に不満を訴えられた時、私共はこの Seminar の目的が何も胃癌診断のみにあるのではなく、この Seminar を通して広く消費器官診断に X 線的にも、内視鏡的にも理解を深めて欲しいからであることを強調し、わずかに数週間の Seminar で早期胃癌をすぐに診断できるようになるとは思っていないことなどを説明するのに骨を折った。このような面からも、今後はこの Seminar の名称や実施に新しい考慮も必要ではなからうか。

### ④ 研修員からの要望（内視鏡関係）

1. 内視鏡器具（Fiberscope）をもっと援助して欲しい。
2. 故障した Scope の修理に期日を要し過ぎる（After Service が悪い）
3. 主都 Jakarta に技術者の Training center のようなものが欲しい。

以上が研修員との懇談会およびそれぞれの病院で出された内視鏡関係の要望の主たるものである。

## (3) エジプト

### ① 病院の規模・設備

ここでの滞在日数はわずか3日であり、その上、夜行便で早朝に着き、また夜行便でマニラに戻るといった旅程であつたため、十分にこの国の実情を見てきたというわけにはいかない。いやむしろ垣間見たといった方が良いでしょう。

Cairo で見学した病院は Cairo 大学の Cancer Institute、および Sahel Teaching Hospital の3大病院だけであつて、必ずしも Egypt の一般病院のレベルを示すものではないが、少なくともこれらは Egypt の最高のレベルのものであろう。従

って規模は大変大きいのであるが、個々の細かい設備となると相当さみしい感じがした。内視鏡関係でも不十分で2～3本のファイバースコープがあるにすぎない。ただこの国で印象的であったのは、私物としてEndoscopeを持っていて、個人の患者にだけこれを使用しているといった現実である。そして器械の私物化もさることながら折角の習得した技術や知識も自分だけのものとして、個人の利益に役立て、それを広く後進に伝えると云った姿勢の欠除していることが、特にこの国で顕著に感じられた。だからよほどの人を研修員として招かないかぎりこの悪循環は絶えず続いて行く可能性もある。

### ② 研修員の活躍状態

この国の研修員は今迄にわずか7名にすぎないが、その中5名が懇談会にも出席して呉れたし、このSeminarに対する理解も深く感じられた。Cairoに着いたのが朝7時頃であったが、予定の着時刻の5時から空港にDr.Mikhailが迎えに出迎えてくれたのには恐縮した。

研修員5名はいずれも指導的な地位にある人達であると見受けられたし、現在の仕事も消化器病の診療に従事していることも間違いない。しかも5名中4名までがCairo大学に属し、他の1人がTeaching Hospitalという恵まれた環境にある。是非このような立場を利用してSeminarで学んだことを有効に役立てて欲しいと願う。

### ③ 胃癌診断の現状

この国ではまだ早期胃癌が診断されたという話は聞いていない。胃癌の頻度はきわめて低く、あまり問題にされていない現状をみればこれも理解できよう。その反面、膀胱癌の頻度は高く、寄生虫との関連が強く示唆されている。次いで皮膚癌、乳癌、大腸癌の順で頻度が高く、これらの早期診断や治療に大きな勢力が費やされているので、胃癌の早期発見などはとても手が廻らないというのが現実のようである。この実情からも、このような頻度の高い病変への何等かの形での協力がむしろ強く望まれた。

Cairo大学で実際に見せられた症例では、X線検査で胃癌が疑われる由で内視鏡検査をやる羽目になったのであるが、ファイバースコープを挿入してみると巨

大な癌腫が目飛び込んできて驚いたような仕末で、このような症例をみただけで、エジプトの胃癌診療の現状が良く物語られていると思う。

#### ④ 内視鏡器具の現状

Cairo 大学では G I F - K で週 2 ～ 3 例の検査が、Sahel Teaching Hospital には G I F - D 3 があり、現在までまだ 8 例の検査しか施行されていなかった。特にこの国では薬品の不足について苦情が云われ、咽頭の局麻薬やガスコンの不足が彼等を悩ましているようである。器械の After service 等については特別に聞かなかった。これはまだそこまで Scope を使いこなしていないことによるのかも知れない。

#### ⑤ 研修員からの今後の要望

エジプト側で特に強く出された要望は Seminar 期間と研修員の専門分野の問題があった。つまり若い医師には長期間（4 カ月から 6 カ月）の、Teaching staff のようなある程度経験のある人の場合は短期間の Seminar（2 ～ 3 週）が良いという意見が出された。また専門別（放射線科医、内視鏡医、外科医、病理学者）にチームを作り、このチーム単位で Seminar を受けるようにするか、毎年順にそれぞれの専門家を送るといった組織立った研修の要望が強かった。

### (4) フィリピン

#### ① 病院の規模・設備

今回の follow-up の 3 カ国の中では、この国が最も level が高いと感じた。特に消化器疾患に対する関心が、他 2 国に比し格段と高い。

我々が訪れたのは U S T Hospital (Santo Tomas 大学)、V. Luna Medical Center (陸軍病院)、Jose Reyes Memorial Hospital、National Cancer Control、Philippine General Hospital (Philippine 大学) の 5 施設であるが、National Cancer Control には診療システムがないので、これを除く他の 4 施設共に 500 ベット以上の大病院ばかりであった。これらの病院はいずれも設備も良く、我国の大病院と比較して決して遜色のないものであった。U S T Hospital や Philippine General Hospital は Philippine の誇る病院でもあり、とりわけ U S T



Hospital は歴史的にも相当古い由緒あるものである。

## ② 研修員の活躍状態

この国はインドネシアに次いで多数の研修員を持っているが、その中の Dr. Perez や Dr. Sta Ana がこの国の消化器病学の指導的立場にあることは良く知られている。なおマニラでの短期間の follow up が実にスムーズに運んだのは、すべて Dr. Perez の細かい配慮の御陰であるといっても過言ではない。

他の研修医も我々の会った範囲内では研修の技術を十分に活用して仕事をしてきた。特に若い研修員の活気に満ちた仕事振りは、今回の他の 2 国には見られないものであった。この意味でこの国では Seminar の効果が最も著しい国といえそうである。

ただこの国も Indonesia と同じように多数の島からなっていることは周知の通りであり、首都マニラ附近と他方の島とでは病院の規模・設備で格段の差があることは十分予想されることであろう。

## ③ 内視鏡器具の設備状態

細かい設備もこの国の病院は他の 2 国に比し良く整備されている。次に各病院の内視鏡器具の状況を示す。

1. UST Hospital (Dr. Perez) : ほとんどすべての内視鏡器種がそろっているし、多くの症例での経験がここにはある。
2. V. Luna Medical Hospital (Dr. Leyva) : FES, FGS-BL, GIF-K, Colonoscope が実に良く整備されていた。Dr. Leyva 自身が大切に器具を扱っているようであり、収納棚も彼自身が作らせた特殊のものを使用、今迄に 300 例の経験あり。
3. DR. Jose R. Reyes Memorial Hospital (Dr. Castro) : FES, FGS-BL がある。これら 2 本の Fiberscope の整備はあまり良いとは云えなかった。FGS-BL のカーソル部が動かなかった。まだ 20 例の経験しかない。
4. Philippine General Hospital: University of Philippine に属し、マニラ最大の病院であるが、内視鏡は FGS-BL が 3 本あるのみである。この内の 2 本は現在故障で日本に修理に戻っていた。年間約 100 例の症例の検査が行

なわれている。

#### ④ 胃癌診療の現状

この国でも他2国と同様に胃癌の頻度はそれほど高くはない。そして発見される胃癌はほとんどが著しく進行したものである。早期胃癌も発見されているようであるが、その数はまだまだごく少ない。

この国ではいまだに結核の罹患率が非常に高く大きな社会問題となっており、また肝癌の頻度も我国に比しはるかに高い。従って胃癌というよりはこの面でのJIOAからの援助を望む声が高かった。

さらに胃癌に限らず手術不能なほど進行した癌が多い関係上、これらに対する放射線療法や化学療法といった研修課目の希望が良く聞かれた。

いずれにしてもこの国のX線・内視鏡の技術の向上は着実に進んでいるという印象を強く持ったし、何と云っても若い医師達の活躍のめざましさが、やがては胃癌診療の面でも結実するであろうと思われた。

尚、この国では各病院の症例検討会に出席して、実際にX線検査の方法や内視鏡技術について症例毎の討論を行なった。

#### ⑤ 研修員からの要望

すでにインドネシア、エジプトについて記してきたと同じ要望がここでも繰り返された。つまり内視鏡の供与およびAfter serviceの問題、チームとしてのSeminar受講、等々である。

特にこの国で強調された点は内視鏡器具の高価なこと、折角注文しても手に入るまでに期間がかかりすぎるといった苦情である。これは関税の問題やこれらの器具を扱っている会社側の問題と云ってしまえばそれまでであるが、……

また今回のfollow-upのようにわずか1週間足らずのものではなく、2～3週間に渡る何人かの専門家（X線、内視鏡、外科、病理）による実際の指導コースのようなものが欲しいという要望や短期間での研修員の再研修の希望もあった。これなどはマニラまでは比較的近距離だし、実現可能な事のような気がする。

## ま と め

以上述べて来たように、細部に亘っては幾多の問題点を指摘することは可能であるし、中には是非共改善すべき重要な問題が含まれていることは事実であるが、今回対象とした癌対策コース及び、早期胃癌診断コースの研修は、研修員を派遣した各国にとって極めて有効に、その成果を挙げているといえることができる。

特に強調すべきと思われることは、今回の巡回指導中に接した帰国研修員は、いづれも、研修中に修得した学識技術を、各国の著しく困難な環境の中にあつて、実際の医療に反映すべく、非常な努力を傾注しているのみならず、極めて意慾が旺盛であると感じとれた点である。従つて、少くとも今のまゝの意慾を失わしめないような配慮をしつゝ暖い心で日本側が彼等と接触を続けるならば、海外協力の面から見ても、明るい将来が期待できるものと思われた。

しかし乍ら一面、彼等の真摯な要望に対して、日本側としては、必ずしもそれらをすべて受入れ難い面があることも理解できるし、中には過度の要望が含まれることはあつても、必ずしも彼等の立場に立つて暖く対応する態度が充分とは言えない面が、一部に感じられたことも事実であつた。ある要望に対して、我国の組織機構の複雑さを説明し、彼等にとっては實際上不可能な難しい手続をすれば可能である場合があると延々と説明されるより、駄目な場合は率直に言つて貰つた方が気持がよいと訴えていた帰国研修員もあつた。現地に於けるJICA関係者の並々ならぬ努力には敬意を表するものであるが、又、限定された権限内で決定的な発言をし難い事情も理解できるが、それでも、上述の意味での配慮の可否が研修成果の将来に於ける評価に大きく影響すると思われるので、所感の一端を述べた。

なお、ジャカルタからカイロへの移動の途中、バンコック空港に於て、団員の一人市川の貴重な学術資料を納めた鞆が紛失したが、その捜索に於ける対応が国際協力事業団はじめ関係機関などに於て、必ずしも適切でなかつたことは極めて遺憾なことであつた。

ともあれ、今回の巡回指導は、各国の帰国研修員の反応が極めてよかつたこととともに、はじめての試みである広い分野の人材に対する指導が極めて有効で、多大の成果を挙げたのみならず、将来の研修員受入の参考になる多くの示唆を得たものと思われる。

## 参 考 资 料



(1) 訪問機関名簿

インドネシア	保健省 医務総局 技術協力調整委員会 インドネシア大学附属病院 フサダ病院 アイルランガ大学附属病院
フィリピン	サントトマス大学 ルナ総合病院 ホセレイエス記念病院 フィリピンガンセンター 保健庁 フィリピン大学附属病院
エジプト	カイロ大学 サヘル Teaching Hospital

(2) 帰国研修員名簿

INDONESIA

Office or Place of Employment

Home Address

Dr. Hilmy (1st Seminar, 1969)

Lecturer  
Dept. of Medicine Fak. of Medicine  
University of Indonesia

Dr. Iman Supandiman (2nd Seminar, 1970)

Assistant Doctor of Internal  
Medicine,  
Medical Faculty of Padjadjaran  
University

Internal Medicine  
Department of the Central  
General Hospital  
"Dr. Hasan Sadikin"

Dr. Rudolf Simadibrata (2nd Seminar, 1970)

Lecturer,  
Head of the G-I Service of the  
Medical Department University of  
Indonesia, Djakarta

Medical Department, University of  
Indonesia, Djakarta, Indonesia

Dr. Kadri (3rd Seminar, 1971)

Chief of Internal Medicine  
Modern Central Hospital,  
Sumatra

Office or Place of Employment

Home Address

Dr. Soemarto (3rd Seminar, 1971)

Assistant of the dean for Student  
Affairs,  
Airlangga University School of  
Medicine,  
Surabaya

Dean of Faculty Airlangga University,  
School of Medicine Djl.  
Dharmahusaia 47,  
Surabaya, Indonesia

Dr. Rachman Mass (3rd Seminar, 1971)

Resident of Department of Radiology  
University Hospital-Dr. Hasan Dadikin  
Banjung

Dr. Theo Soehardjano (4th Seminar, 1972)

Lecturer,  
Internal Medicine, Medical Faculty,  
University of Deiponegore, Semarang

Dr. Kariadis Hospital, Semarang

Dr. I Dewa Gede Sukardja (4th Seminar, 1972)

Senior Lecturer,  
Department of Surgery,  
School of Medicine  
University of Airlangga, Surabaya

Djl. Darmahsada 47,  
Surabaya, Indonesia



Office or Place of Employment	Home Address
<p>Dr. Theo Tendobala (5th Seminar, 1973)</p> <p>Chief, Dept. of Internal Medicine, Faculty of Medicine, University Sriwijaya and General Hospital Palembang, Indonesia</p> <p>Rumah Sakit Umum Pusat-Palembang</p>	
<p>Dr. Julius (6th Seminar, 1974)</p> <p>Gastroenterology Lecturer, School of Medicine of Andalas University</p> <p>Jl. Pemida 6, Padang, Indonesia</p>	
<p>Dr. Boloni Marpaung (7th Seminar, 1975)</p> <p>Gastroenterology Lecturer in Internal Medicine University of North Sumatra</p>	
<p>Dr. Daldiyono (7th Seminar, 1975)</p> <p>Gastroenterology Lecturer in Internal Medicine Medical Faculty University of Indonesia</p>	
<p>Dr. Indrawan Djajapranaja (8th Seminar, 1976)</p> <p>Division Gastroenterology Dept. of Medicine Airlangga University School of Medicine Surabaya - Indonesia</p> <p>18 Embong Ianjung - Surabaya - Indonesia Phone 44569</p>	

Office or Place of Employment	Home Address
<p>Dr. H.A.M. Akil (8th Seminar, 1976)</p> <p>Division of Gastroenterology  Depat. of Internal Medicine  Faculty of Medicine of  Hasanuddin University  Djuag Pandang - Indonesia</p>	<p>Jl. A Mappanyuki No.12  Ujung Pandang -  Indonesia</p>
<p>Dr. Harjono Adenan (9th Seminar, 1977)</p> <p>Gastroenterology  Lecturer, Dept. of Internal  Medicine Gajamada Univ.  Hospital</p>	
<p>Dr. Tjindarbumi (1972)</p> <p>Central Hospital,  Jakarta Jalan Diponegore 71,  Indonesia</p>	
<p>Dr. Hassan Arief Ijed (1974)</p>	<p>JL Jendral, Sudirman  69 BDG,  Indonesia</p>
<p>Dr. Togar Mulia Simandjuntak (1975)</p>	<p>Hang Jebat II/8  Kabyoran Baru,  Jakarta Selatan,  Indonesia</p>
<p>Dr. Muhamad Djakaria (1975)</p>	<p>Jalan Pelajar,  Tebet Utara II, No.1  Jakarta, Indonesia</p>
<p>Dr. Mohammad Nashun Abdullah (1976)</p>	<p>Jalan Bali 21,  Surabaya, Indonesia</p>

EGYPT

Office or Place of Employment	Home Address
Dr. Kadry Ismaal (8th Seminar, 1976)  Director of Tant. Cancer Institute Egypt	5 Aswan Square, Agouza Cairo, Egypt
Dr. Mikhail Louis Wahba (9th Seminar, 1977)  Gastroenterology Head of Surgical Department and Gastroenterology Unit at Sahel Teaching Hospital	
Dr. Ahmed Mahmoud Hablas (1971)  Tanta Can Cer Center, Ministry of Public Health, Cairo, Egypt	
Dr. Ali Amine Ali Tarkhan (1974)  88, Kasr-El Aini Street, Cairo, Egypt	
Dr. M. Shehif Omar (1975)  Assistant Professor of Surgery, Cancer Clinical Oncology Cairo University	11, Bollus Hana Street, Doky, Cairo, Egypt
Dr. Mostafa Abdel Hamib (1976)	Fayoum, M. Lotfalla, Hassan Atalla Street, Cairo, Egypt

PHILIPPINES

Office or Place of Employment	Home Address
Dr. Primo Brilliances (1st Seminar, 1969)	
Senior Resident - "Out-Patient Department" Memorial Hospital, Rizal Avenue, Manila, Philippines	157 Cord llers Street, Quazon City Philippines
Dr. Jose R. Reyes Memorial Hospital, Rizal Avenue, Manila Philippines	
Dr. Hawthorne N. Banez (2nd Seminar, 1970)	
Chief Resident ... General Surgery II Service, UP-PGH Medical Center	
Assistant Instructor .....	
College of Medicine, University of the Phil.	
Dr. Jesus Y. Perez, Jr. M.D. (2nd Seminar, 1970)	
Dept. of Medicine, Division of Gastroenterology Faculty of Medicine & Surgery, University of Santo Thomas Hospital	161 J. Rizal, Makati, Rizal, Philippines

Office or Place of Employment	Home Address
Dr. Juan B. Escandor (3rd Seminar, 1971)	
Rosidant Physician, Cancer Institute Philippine General	Guhat, Sorsogon (Republic of Philippines)
Philippine General Hospital (Cancer Institute) Herran St. Manila	
Dr. Armando D. Sta Ana (3rd Seminar, 1971)	
Chief of Gastroenterology GSIS Hospital	
Dr. Fe Villanueva (4th Seminar, 1972)	
Senior Resident, Department of Medicine, Hospital NG Maynila, Manila	
Dr. Brigido T. Leyva (5th Seminar, 1973)	
Chief, Gastroenterology Service and Ward Officer, GI Ward Luna Medical Center, Quezon City	No. 6 Mercury St., Tattay, Rizal, Philippines
V. Luna Medical Center, Armed Forces of the Philippines, Quezon City	
Dr. Eulogio Tolentino Jr. (5th Seminar, 1973)	
Medical Specialist 1, Department of Medicine, Veterans Memorial Hospital	21 Samar Avenue, South Iriangle, Quezon City, Philippines
Veterans Memorial Hospital, Hilaga Avenue, Diliman, Quezon City, Philippines	

Office or Place of Employment	Home Address
Dr. Torres Alejandro Alex (6th Seminar, 1974)	
Oncology, Reyes Memorial Hospital	988 L. Segura St., Mandaluyong, Rizal, Philippines
Dr. Teodoro Castro (7th Seminar, 1975)	
Surgery Dr. Jose R. Reyes Memorial Hospital and Medical Center San Lazaro Compound, Rizal Ave., Manila	
Dr. Mario J. Rocea (8th Seminar, 1976)	
National Cancer Control Center San Lazzaro Compd Rizal Ave. Manila, Philippines	
Dr. Jerus Del Prado (8th Seminar, 1976)	
Baguio General Hospital Baguio, Philippines	
Dr. Malbas Gabriel (9th Seminar, 1977)	
Gastroenterology Chief of Hospital II, Butuan Hospital, Butuansity	
Dr. Fe Villanueva (1972)	
Department of Medicine, Ospital MG Maynila, Manila, Philippines	

Dr. Hernado Mejia (1973)

Nothern Mindanao Regional,  
Training Hospital,  
Cagayan De Oro City,  
Mindanao, Philippine

Dr. Benicio Torralba (1974)

213 Benedicto Padilla  
Street, San Juan.  
Rizal, Philippines

Dr. Serafino Hilvano (1975)

16 Samat Mandaluyong,  
Rizal, Philippines

Dr. Restituto Recto (1976)

29 Buenaventura Street,  
Tangos Navotas,  
Rizal, Philippines

Dr. Guerilio Lim (1976)

1271 Instrucion Street,  
Sempaloc, Manila,  
Philippines

13) 面接者名簿

INDONESIA

Name	Address
Dr. Didid Tjindarbumi	Dept. of Surgery FAC. of Medicine, Univ. of Indonesia, Jakarta
Dr. I.D.G. Sukardja	Dept. of Surgery FAC. of Medicine, Univ. of Airlangga, Surabaya
Dr. Daldiyono	Jllele 1/11 Rawamangun Jakartatimur
Dr. Haryono Adenan	JL. R. Saleh 7 Magelang
Dr. H.A.M. Akil	JL. A. Mappanyukki 12 Ujunpandang - Indonesia
Dr. Rachman Maas	JL. Cikuso Sdatan No. 44 Bandung
Dr. B. Marpaung	Jl. Universitas 38 Medan - Indonesia
Dr. R. Simadibrata	Univ. of St. Carlos
Dr. Hilmy	FAC. of Medicine, Univ. of Indonesia, Jakarta
Dr. Togar M. Simandjuntak	Hang Jebat 11/8 Kebayoran Baru-Jakarta Jakarta
Dr. M. Djakaria	Jalan Belanak VI No. 6 Jakarta Timur
Dr. Thed Soehardjono	Mawar S. Semarang Indonesia



EGYPT

Name	Name of Organization Position	Name of Training Course
Dr. Kadry Ismael	Director of Tanta Cancer Institute	The Early Gastric Cancer Detection Seminar
Dr. Mikhail Louis Wahba	Head of Surgical Dept. and Gastroenterology Unit at Sahel Teaching Hospital	The Early Gastric Cancer Detection
Dr. Ali Amine Tarkhan	Asst. Lecturer in Radiotherapy and Radiology Dept., Cairo Univ.	Clinical Oncology
Dr. Mahmoud El Merzabain	Assit Prof. of Medicinal Chemistry Cancer Institute	Experimental Cancer Cherotherapy
Dr. Mohamed Sherif Omar	Asst. Prof. of Surgery Inst. Cairo Univ.	Cancer Clinical Oncology

PHILIPPINES

Name	Address
Teodoro G. Castro Jr.	93 Hyacinth St. QC.
Jesus Perez Jr.	59 Buchamah Greeh Hills, Sam Juam
Brigido T. Leyva	No. 6 Mercury St. Taytay, Rizal, Philippines
Primd V. Brillantes Jr.	133 Cordillera St., QC.
Mario V. Rotea	287 D. Tvazoix, QC.
Gabriel C. Malbas	Butuan Hospital Bu city, Mindanao, Philippines
Serafin C. Hilvano	16 Samat, Mandaluyong, Metro Manila
Aruaydo Sta. Aua	19 Dancalan St. Damar Village Quezon city, Metro Manila
Hawthorne N. Banez	UP-PGH
Guerilio Lim	Dept. of Surgery Phil Gen Hospital
Restituto Recto	Dept. of Surgery National Cancer Control Center

